

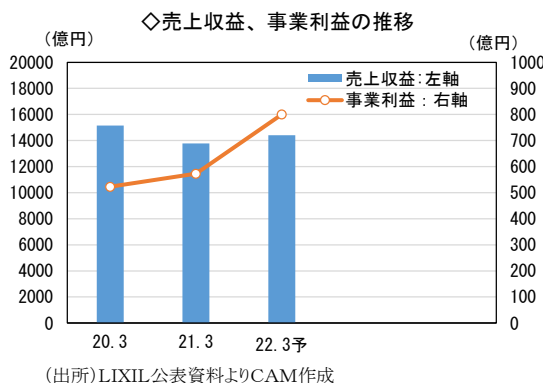
企業ニュース LIXIL

(東証1部 : 5938) <https://www.lixil.com/jp/investor/>

作成者: 奥村義弘

住宅設備の最大手

1949年創設の住宅設備の最大手。LIXILとは住(LIVING)、生活(LIFE)から作られた造語。2011年にトステム、INAX、新日軽、東洋エクステリアを統合するなど、内外でM&Aを積極的に手掛け事業を拡大させてきた。21.3期の売上高構成比は、ウォーターテクノロジー事業(衛生機器、ユニットバス、洗面カウンター、システムキッチンなど水回り設備)56%、ハウジングテクノロジー事業(住宅サッシ、各種シャッターなど建材)34%、ビルディングテクノロジー事業(ビル、店舗用サッシなど建材)7%、住宅・サービス事業(住宅ソリューション、不動産、金融サービスなど)3%。



内外でのリフォーム・水回り需要が拡大

22.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は売上収益が3,458億円、前年同期比11%増、事業利益が231億円(前年同期は26億円の赤字)。第1四半期としては過去最高益となった。前年の経済活動の制限からの回復、非接触(タッチレス化)や快適性の向上を目的にリフォーム需要が増加した。特に海外事業が好調で、欧米の水回りの売上が伸長。日本でもバスルーム、洗面化粧台、キッチンといった住宅向けリフォーム需要が好調であった。利益率の高い海外事業の売上構成比の上昇、製造部門の操業度向上などで売上総利益率は36.2%と前年同期比5ポイント改善した。

会社側では通期計画を売上収益1兆4,400億円、前期比4%増、事業利益800億円、同40%増に据え置いた。世界各地のロックダウンによる需要やサプライチェーンへの影響、海上輸送のひっ迫、ウッドショックの影響、原材料価格の上昇などが潜在的リスク要因。その中で消費者の高機能品、低環境負荷の製品を求めるニーズに応える商品群には引き続き関心が集まろう。またデジタルトランスフォーメーションを通じた生産性の改善など、一段の構造改革の進展にも期待できよう。

【株価動向・投資判断】

コロナ後の消費者ニーズに応える企業として持続的な成長への期待が高まっている。今期は大幅増益見通しで、増配も発表しており、株高を支える要因が多いと考える。

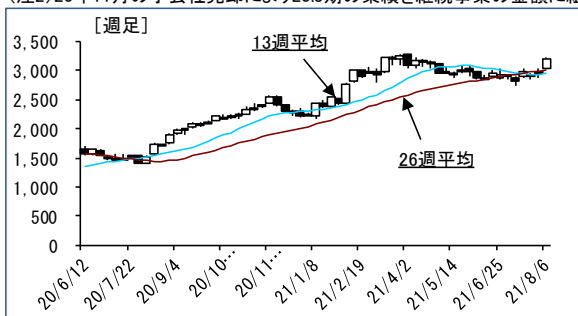
<5938 LIXIL 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	事業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,514,449 (-)	52,290 (-)	40,909 (-)	12,518 (-)	43.2	70.00
21.3	1,378,255 (▲ 9)	57,288 (10)	33,804 (▲ 17)	33,048 (164)	113.9	75.00
22.3 予	1,440,000 (4)	80,000 (40)	75,500 (123)	47,000 (42)	161.9	80.00

(注1) 事業利益は売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出

(注2) 20年11月の子会社売却により20.3期の業績を継続事業の金額に組み替えているため、伸び率は「-」表示



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/8/6)	3,205 円
年初来高値 (高値日)	3,280 円 (21/3/23)
同 安値 (安値日)	2,177 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	19.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,922.5 円
P B R	1.67 倍
予想配当利回り	2.50 %
(1株当たり配当金年80.00円)	
R O E (21.3)	6.3 %
発行済み株式数	31,332 万株